

第 3-5 回市民説明会(オープンハウス・説明会)

【実施概要】

1. 日時・場所

- ・ 8月9日(水曜日)、10日(木曜日) 地下歩行空間 憩いの空間
オープンハウス 11時00分 ~ 19時00分
- ・ 8月11日(金曜日・祝日) 北3条交差点広場西
オープンハウス 10時00分 ~ 17時00分
トークショー 14時00分 ~ 15時00分
説明会 15時30分 ~ 16時30分

2. 来場者数

- ・ 8月9日(水曜日) 530人程度
- ・ 8月10日(木曜日) 550人程度
- ・ 8月11日(金曜日)
370人程度(内訳: オープンハウス 約310人、トークショー 約30人、
説明会 約30人)

3. 当日の様子





4. オープンハウスでいただいた主な意見

〈期待の声〉

- ・説明を聞いて大変勉強になった。頑張ってもらいたい。
- ・いろいろな意見があると思うが、これからの札幌を見据えたときに、街が発展すると思うのでオリンピック・パラリンピックはやるべき。72年大会にも良いイメージがあるので、もし招致出来たら良い大会にしてほしい。
- ・大会招致に賛成。クリーンな大会運営もさることながら、そもそもスポーツが子どもたちに与える夢などについて、もっとアピールしてほしい。
- ・札幌は日本で唯一、夏（東京2020大会のマラソン）と冬の両方で開催した都市。コロナ禍の中で、短期間でマラソン競技を開催した実績もある。弱気にならずに札幌市としてのプライドを持って招致をするべき。
- ・72年大会のときは小学生で、ものすごく感動した思い出があり、今の子どもたちにも体験してほしい。
- ・札幌を世界にPRするために招致すべき。観光客の増加に期待している。
- ・東京2020大会のときも株価が上がるなどの経済効果があったので、ぜひ開催してもらいたい。
- ・新設の施設が一つもなく開催できるのは素晴らしい。
- ・北海道・札幌の未来のためにも開催してほしい。道内でオリンピック・パラリンピックが開催されれば盛り上がり、札幌だけでなく道内も活性化すると思う。
- ・生きているうちに一度観たい。

〈不安や懸念の声〉

- ・招致に反対ではないが今の計画ではダメだと思う。会場配置が今のままであれば反対。

- ・大会招致賛成。ただ付箋に書かれた反対派の意見を見て不安になった。
- ・経費のことが心配である。多額の税金が使われるのでは。経費と競技会場の問題がクリアされるのであれば開催すべき。
- ・大会の開催効果について、まちのバリアフリー化などはイメージできるが、経済効果については本当にこれだけの効果があるのかイメージできず疑問である。もっと分かりやすく伝えてほしい。
- ・除雪など、力を入れるべきところをもっとある。やるべきことができていないから、招致を応援できない。
- ・オリンピック・パラリンピックは好きだからやっていたら観るが、札幌でやる必要はない。渋滞や人が増えるのは嫌だ。
- ・東京大会の反省を踏まえればより良い大会になるはず。
- ・既存の施設を最大限生かすと言うが、そのまま使うのではなく、改修したりする必要があるのであれば、「生かす」とは言えないのではないか。
- ・統計法に基づく民意確認の方法でないと市民は納得しない。その方法で過半数を超えない限りは招致に反対。
- ・札幌市は信用しているが、IOCは信用できない。

5. 説明会でいただいた主な質問や意見

- ・道内各都市の施設を練習会場として活用し、地元の子どもと選手団との交流を図る等、オール北海道で進めていってほしい。
- ・東京大会では経費が増大したこともあり、札幌で開催することで札幌市の財政に悪影響があるのではと危惧している。
- ・大会後に運営の証拠が残り、不正が判明した場合でもしっかりと検証できる体制が必要。
- ・大会開催時は、アスリートや関係者が来ることにより交通のあり方が変化すると考えられる。対策をしっかりと打ってほしい。
- ・昨今のオリンピックは利権の場、儲けの場になっていると感じる。そのようなものを招致することについての考えを聞きたい。
- ・住民投票を行ってほしい。

6. トークショー

若者が語るオリンピック・パラリンピック体験 ～東京から札幌へ～

(1) 主催 Team SHIFT

【メンバー】

都築 則彦 さん(千葉大学大学院博士後期課程・NPO法人おりがみ理事長)

原 実李 さん(ペロポネソス大学大学院オリンピックスタディーズ修士号プログラム)

山本 華菜子 さん(Go Beyond創立・元代表)

日比 麻記子 さん(東京大学大学院修士課程・MGオリパラ元代表)

竹田 遥 さん(東洋大学社会学部3年・車いすスポーツクラブマネージャー)

協力 札幌市

(2) トークショー登壇者

毛利 迅 さん(札幌市まちづくり若者実行委員会)

牧野 准子 さん(有限会社環工房代表取締役)

※河合 竜二 さん(一般社団法人コンサドーレ北海道スポーツダイレクター)は、当日体調不良により欠席

(3) 当日の様子



(4) 概要

① ピッチタイム

トークショーの前に、Team SHIFTのメンバーから東京大会を踏まえたそれぞれ

の体験について、3分程度でプレゼンテーション（ピッチ）を行った。

・都築さん

オリンピックと文化をテーマに、文化プログラムを契機とした「うえの夏まつり盆踊り大会」復活のエピソードや、オリンピック聖火リレーと同時期に成層圏で炎を点灯するEarth Light Projectの事例を報告

・原さん

東京大会をきっかけに、国際オリンピックアカデミーやユースオリンピックボランティアなどの存在を知り、「世界への扉」が開かれ、オリンピック研究を志すに至った事例を報告

・山本さん

平昌パラリンピックのボランティアをきっかけに、大学生活の目標が定まり、現在のユニバーサルデザインに関わる仕事や一般社団法人の活動に繋がっている事例を報告

・日比さん

学生として組織委員会のインターン制度の枠から東京大会の運営に携わった経験を報告し、学生生活では得られない経験ができるという魅力について報告

・竹田さん

地元・千葉県が競技会場である東京大会に全く関わることができなかったが、テレビを通して活躍する選手をみて感動し、現在パラスポーツに関連する活動をしていることを報告

② トークショー

MCの都築さんより、トークショー登壇者に以下のような質問をしながら、意見交換を行った。

- ・普段どのような活動をされているのか
- ・ピッチを聞いた感想はいかがか
- ・トークショー登壇者2人の今後の活動にどのような影響があるか 等

ピッチの内容を受けて、登壇者からは、①オリンピック・パラリンピックは、若者がまちづくりに興味を持つ機会であり、企画する側に多世代が混ざり合いながら進めることが重要。②障がいのある方も企画する側に回ることで、ネットワークが広がり、外出目的が創出される可能性がある。③世代や障害の有無に関わらず、皆で札幌大会について考えることで、真の意味での共生社会に繋がることが期待できるなどの意見が出された。

③ 質疑応答

会場からは以下のような質問が寄せられ、Team SHIFTのメンバーやトークショー登壇者が回答を行った。

—————札幌大会に対してかかる費用についてどのように考えるか？

まず、札幌大会の開催のメリット・デメリットが、議論のテーブルに並びきっていないのではないかと。特に汚職事件の問題は、多くの市民の関心を集めるテーマではあるが、これはデメリットと向き合う議論である。デメリットと向き合うことと同時に、メリットについて議論を展開していくことも重要であろう。

—————クーベルタンの考えたオリンピックの理念と現在のオリンピックの理念の違いについてどう考えるか？

オリンピックの理念の変遷については、時代の変遷と共に変わるべきもの・変わるべきでないものがある。平和の祭典であるという原点を大切にしつつ、人権問題や環境問題といった現代的なテーマをふまえて、オリンピックのあり方を考え続けなければならない。

—————札幌大会が子どもの夢になり得るか？

札幌大会が子どもの夢になり得るかを考えるにあたっては、まずは応援される大会を目指す必要がある。そのためにも、情報の透明性を高め、多くの人と共に、大会のあり方について議論を重ねていく必要があるだろう。